

平成15年7月2日

水産庁

独立行政法人水産総合研究センター

瀬戸内海区水産研究所

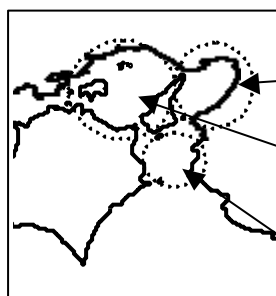
## 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報（7～8月）

-平成15年6月23日～6月30日においてFAX等による連絡をもとに、別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 -

### 今後の見通し（2003年7月～8月）

漁場への来遊量予測（カタクチイワシ）

瀬戸内海東部海域でのシラスは平年を下回る  
大阪湾での小・中羽は前年並みの好漁



<シラス>

大阪湾では不漁であった前年をやや上回るものの、平年を下回る。

<シラス>

播磨灘では不漁であった前年をやや上回るものの、平年を下回る。

<シラス>

紀伊水道東部（和歌山県側）では前年並、平年を上回る。

紀伊水道西部（徳島県側）では前年、平年を下回る。

注：平年を上（下）回るとは1992～2002年の漁獲量の平均を上（下）回ることを表す

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>) 及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ (<http://www.nnf.affrc.go.jp/>) に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。

水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉、狭間

住所：〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

代表：03-3502-8111（内線7376） 直通：03-3501-5098

ファックス：03-3592-0759

電子メール：toru\_hazama@nm.maff.go.jp

水産総合研究センター瀬戸内海区研究所企画連絡室

住所：〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5

電話：0829-55-3409

ファックス：0829-54-1216

電子メール：kiren@nnf.affrc.go.jp

## 参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場  
大阪府立水産試験場  
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター  
岡山県水産試験場  
香川県水産試験場  
徳島県立農林水産総合技術センター 水産研究所  
瀬戸内海区水産研究所 生産環境部  
水産庁 増殖推進部 漁場資源課

## 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

### 1. 今後の見通し(2003年7月~8月)

#### (1) シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道東部(和歌山県側)では前年並、平年(1992~2002年の平均)を上回る。  
紀伊水道西部(徳島県側)では前年、平年(1992~2002年の平均)を下回る。  
大阪湾では不漁であった前年をやや上回るものの、平年(1992~2002年の平均)を下回る。  
播磨灘では不漁であった前年を上回るが、平年(1992~2002年の平均)を下回る。

紀伊水道、大阪湾: 標本漁協の漁獲量(図1~2)

播磨灘: 灘全域漁獲量を指標とした(図3)。

#### (2) 小・中羽(本年春・夏季発生群)

大阪湾では好漁であった2002年並、平年(1992~2002年の平均)を大きく上回る。

巾着網標本船の漁獲量を指標とした(図2)。

### 2. 漁況の経過(2003年5月~2003年6月)および見通しについての説明

#### (1) シラス

2003年5月~2003年6月

紀伊水道東部(和歌山県側)では好漁であった4月に比べると5月以降漁獲量は減少したものの6月上旬まで平年を上回る漁があった(標本漁協の5月の漁獲量は前年の3.8倍、平年の1.0倍)。6月中旬から漁獲量は急減した。

紀伊水道西部(徳島県側)でも好漁であった4月に比べると5月以降漁獲量は減少したものの6月上旬までは好漁であった(標本漁協の5月の漁獲量は前年の48.2倍、平年の1.8倍;6月上旬は前年の71.7倍、平年の1.5倍;6月の中旬は前年の13.7倍、平年の0.5倍)。

大阪湾(大阪府側)では4月24日に漁が始まった。4月は1998年以来の好漁であり、引き続き5月も好漁であった(標本漁協の漁獲量は前年の2.9倍、平年の2.0倍)。6月上旬には漁獲量が減少し、魚体も小型化したため、1週間程度の休漁期間があった。6月下旬は比較的大型の個体が主で、新規加入の個体は少なくなった。

大阪湾(兵庫県側)の標本漁協の5月の漁獲量も前年の4倍以上で、好漁年の1999年同期の84%であった。6月上旬には漁獲量が減少し、魚体も小型化したため、1週間程度の休漁期間があった。6月中旬以降は順調に水揚げされている。

播磨灘東部(兵庫県側)では5月20日に漁が始まった。5月26日までは取り決めにより漁場は限定されていたが好漁であった。5月26日以降は漁が減少した。6月上旬は内海発生と思われる小型群が出現したため、6月13、14日を臨時の休漁日とした。休漁日後、ある程度の漁があり、次の小型群が出現しはじめた。

播磨灘南西部(香川県側)では6月1日に漁が始まったが、第1週はほとんどシラス漁はなかった。第2週より漁獲されはじめた。6月中旬以降はある程度の漁が続いている。

播磨灘北西部(岡山県側)では昨年よりも1日遅い5月16日から漁が始まった。5月の漁は好調で前年を上回ったが、6月上旬は少なくなった。

#### (2) 産卵量

紀伊水道内域、外域とも5、6月は前年、平年を下回っている。

大阪湾では5月に前年、平年を大きく上回る量の卵が採集されている。6月は平年を上回るものの前年を下回った。

播磨灘では6月は前年、平年を下回った(徳島、岡山、香川、兵庫調査集計; (図3))。

#### (3) 今後の見通しの説明

##### シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道東部（和歌山県側）では6月中旬、漁獲量が減少したが、新規加入群と見られる1~2cmの小型群が見られた。卵の採集量は少ないが、多くの定点で卵が出現しており、産卵が継続している。紀伊水道西部（徳島県側）では5月における卵の採集量が少ない。

大阪湾では外海発生群の補給路である紀伊水道和歌山県側での漁が減少していることから判断して、外海発生群の加入に多くを期待できない。一方、大阪湾内での卵の採集状況から、内海発生群は昨年にはおよばないものの平年並みと考えられる。

内海発生群が漁の主体である播磨灘においては、6月における播磨灘での産卵量水準が高く、水温が低いほど7月以降の漁は良くなる傾向がある（図4）。2003年6月は産卵量が少なく、水温は平年をやや下回っている（図3）。また、新規に漁獲対象となる小型群がみられているが、香川水試の調査ではシラスの餌となるコペポータ等のプランクトン数が漁場海域において少ない。図3の2002年7月以降の漁獲量は平年を上回っているが、これは9、10月（秋漁）が好漁であったためであり、2002年7、8月は低調な漁であった。2003年7、8月については低調であった前年7、8月は上回るが、好漁が期待できる条件ではないので平年を下回ると考えられる。

### 小・中羽（本年春・夏季発生群）

大阪湾では、本年春シラス漁で対象となった群れが成長し小・中羽となって漁の対象となる。本年春シラス漁の水準は好漁であり、好漁であった前年並の漁が期待できる。

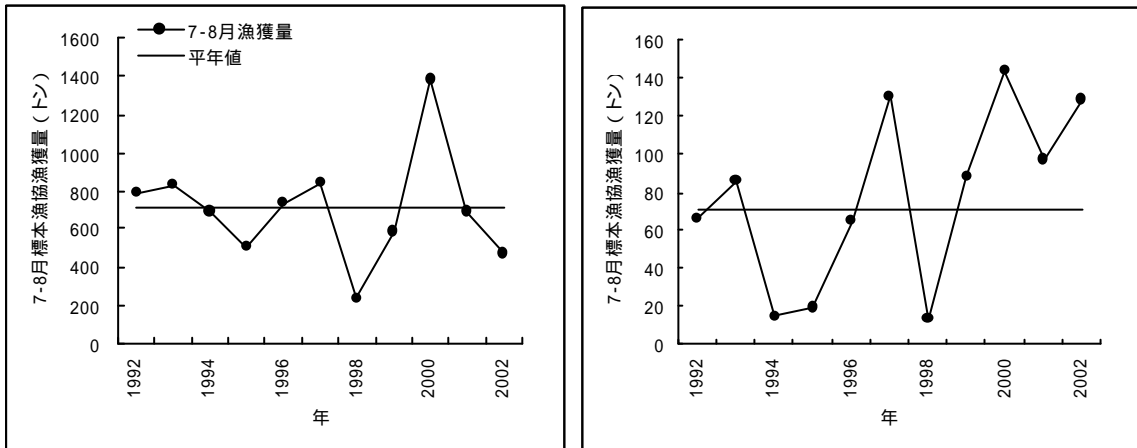


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：右図）および紀伊水道西部（徳島県側：左図）の標本漁協におけるシラス漁獲量

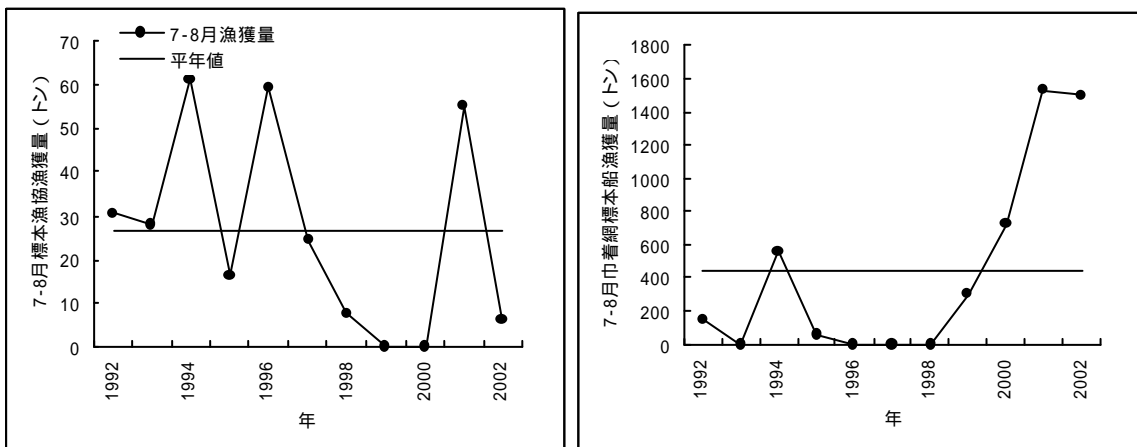


図2 大阪湾の標本漁協におけるシラス漁獲量（左図）および巾着網標本船のカタクチイワシ漁獲量（右図）

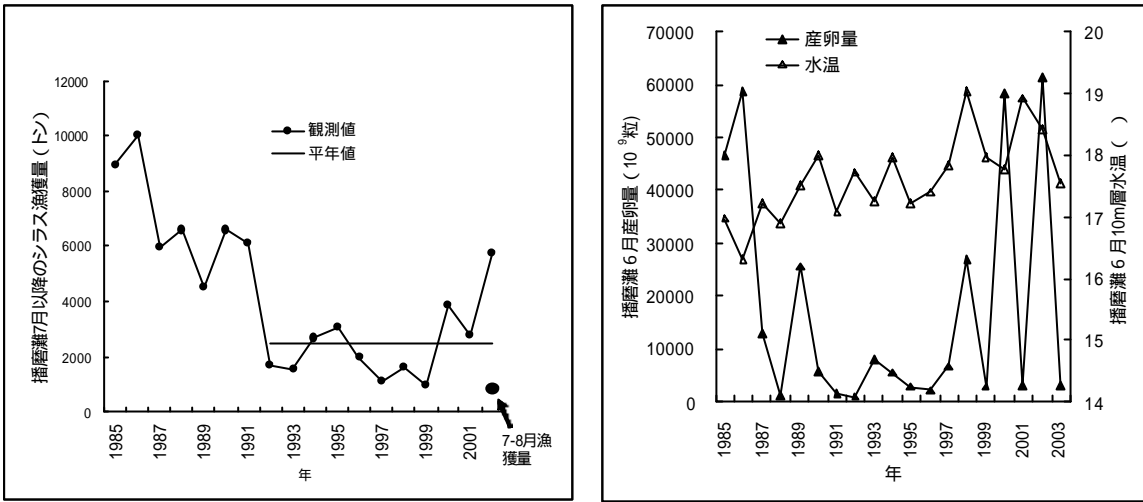


図3 播磨灘の7月以降（7-10月）のシラス漁獲量（左図）および6月の産卵量、10m層水温（右図）

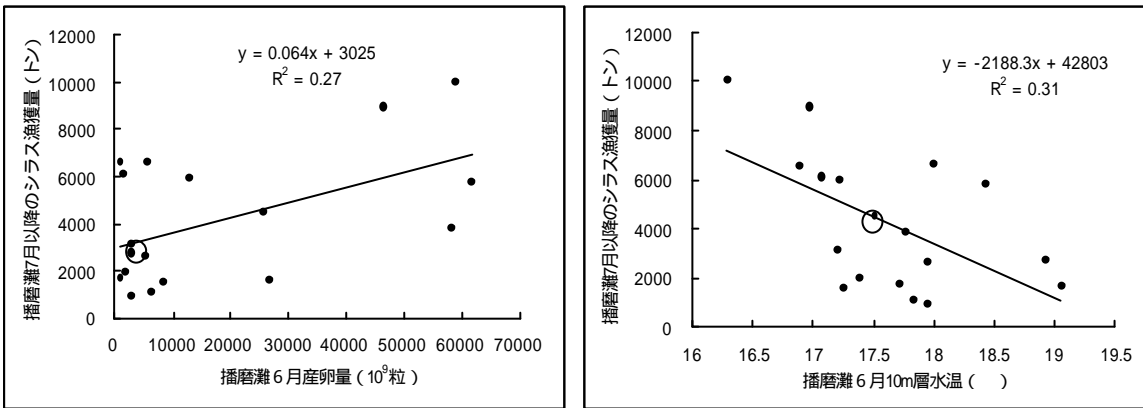


図4 播磨灘の7月以降（7-10月）のシラス漁獲量と6月の産卵量の関係（左図）および7月以降のシラス漁獲量と6月の10m層水温の関係（右図）、各図中の白丸は2003年の予測値を示す